

会社概要 (2010年9月30日現在)

社名
日本ルツボ株式会社
(登記上社名：日本坩堝株式会社)
Name：Nippon Crucible Co., Ltd.

設立
明治39年(1906年)12月

本店所在地
東京都渋谷区恵比寿1-21-3
恵比寿NRビル
TEL(代表)：03-3443-5551

資本金 7億452万円
証券取引所 東京証券取引所
市場第二部

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ
証券コード 5355
従業員数 企業集団の従業員数
211名
(前期末比3名減)
当社の従業員数
158名
(前期末比増減なし)

役員 (2010年9月30日現在)

代表取締役会長 岡田 民雄
代表取締役社長 重光 碩
常務取締役 山岸 攻
常務取締役 大久保 正志
取締役 向井 克喜
取締役 佐野 俊昭
常勤監査役 安田 哲夫
監査役 茂木 康三郎
監査役 草野 成郎

(注)常勤監査役安田哲夫氏、監査役茂木康三郎氏および監査役草野成郎氏は、社外監査役であります。

 **日本ルツボ株式会社**
Nippon Crucible Co., Ltd.

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-3
恵比寿NRビル

Tel：03-3443-5551 Fax：03-3443-5191
URL：http://www.rutsubo.com/

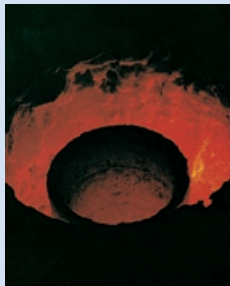
株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会 毎年6月下旬
単元株式数 1,000株
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

公告方法 電子公告(<http://www.rutsubo.com/>)
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

ルツボについて



5,000年以上の歴史を持つルツボは、人類に様々な文明をもたらしてきました。現在でも、自動車・電気機器・機械・IT機器・公共土木・住宅関連・環境関連部品の鑄造には欠かせず、まさに一国の産業を支える器(うつわ)です。そのサイズは、酒杯くらいのものから、大きいものは直径1m、高さ1.5mのものまであり、銅合金で5.5トン、アルミニウムで1.7トンを溶解できます。ルツボは原初以来その形を変えませんが、その素材および製造技術は日進月歩であり、当社のルツボも最先端の技術により進化を続けています。アジアの経済発展が急速に進む今、様々な産業で大量の金属部品が必要とされ、そのために最高品質のルツボが求められています。当社のルツボは新たな時代のニーズに確実に応えています。



NIKKAN Report

第171期 中間報告書
2010年4月1日～2010年9月30日

日本ルツボ株式会社

証券コード:5355



わが社は、創造性豊かな活力に満ちた役職員により、
伝統を守りつつ、いかなる時代、いかなる環境にも
適合する会社を、目指します。

● Heart & Spirit

当社は明治の創業以来、お客さまニーズを的確に把握し
新製品の開発、新ジャンルの開拓を推し進めてまいりました。
21世紀も、その姿勢は変わりません。

● Ecology

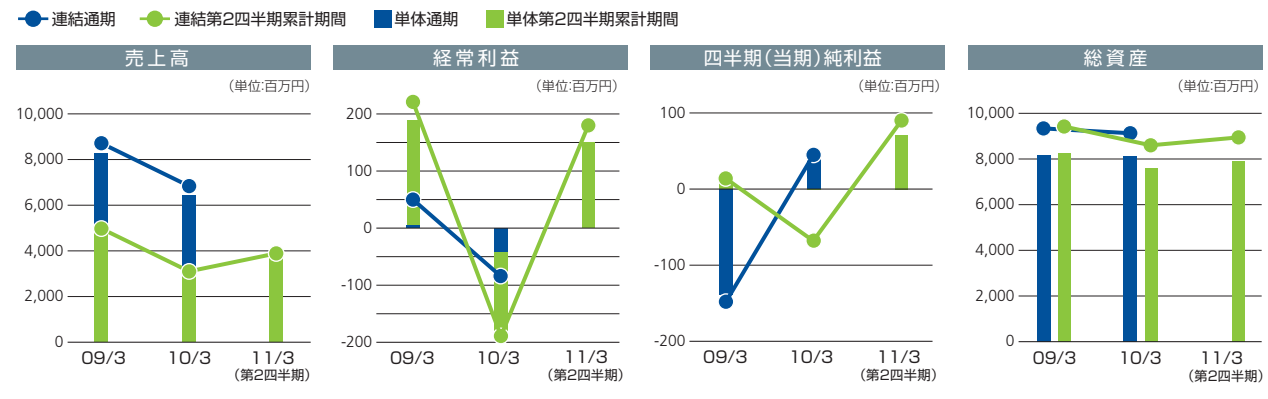
当社は、どんなに優れた技術であっても地球環境に
ダメージをあたえてはならないと考えます。
環境に対して求められるもの、必要なものを展望しながら
製品・設備を提供してまいります。

● Challenge

「現状維持は退化につながる」という発想のもと、
常に新しい技術を開発し続け、新しい分野への進出により
お客さまの満足を実現してまいります。



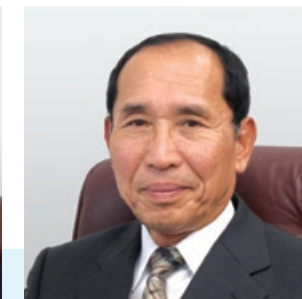
財務ハイライト



2010年度下期への対応と、
長期的施策を進めています。



代表取締役会長
岡田 民雄



代表取締役社長
重光 碩

第171期(2010年度)上期は、約1年続いた世界同時
不況が2009年9月に底を打ち、また心配された欧州の
金融市場の混乱も漸く鎮まり、主に新興国の牽引で世界
経済は緩やかな回復を見せました。当社も、当該期間の連
結業績が売上高3,887百万円、経常利益179百万円、当
期利益90百万円を計上することができました。この間の
株主の皆様の変わらぬご支援を衷心よりお礼申し上げます。

顧みますに、リーマンショック以来、大幅な合理化と費
用削減を断行して収益構造の再構築を実現しながら、一
方では、三工場の新たな設備投資も、海外展開の拡充も凍
結いたしました。しかし、当社はあらゆる金属の溶解に関
わる特殊耐火物と炉のメーカーであり、自動車、鉄鋼、機
械、建設、公共土木、エネルギー、環境、IT産業をグロー
バルに支えていますので、人材育成や設備投資そして海外
合併は当社にとって戦略次元の課題であり、いつまでも
凍結することは許されません。

かかる考えのもと、当上期においてまず若い技術系人
材の獲得を進めました。また黒鉛ルツボの高性能と製造
革新につながる設備投資を大阪工場で再開しました。
2011年3月に設置・稼働の予定です。海外展開の拡充
も、候補パートナーとの協議を再開いたしております。当
社は軸足は日本に置き、世界で最も厳しい日本国内顧客
よりの錬磨を受けながら、新技術や新製品の開発を進め
て得た成果を日本市場とアジア市場で展開いたします。

さて今期下期の当社の景気動向認識は、日本経済のデ
フレ持続や米国の景気回復の遅れを主因とする急激な円
高と、自動車・家電に対する政府の緊急施策終了の影響を
受けて、本年10月より暫くの間の落ち込みを予想してい
ます。この新たな試練に対しても、足下の対応を抜かりな
く実施しながら次世代のための長期施策を鋭意進めてま
いる所存です。株主の皆様には、今後も何卒変わらぬご支
援を賜りますようお願い申し上げます。
平成22年12月

中国・アジア圏での目覚ましい経済成長を受け国内主要市場である鑄造・鉄鋼も順調に回復基調。「アジアは内需」の経営方針の下、耐火物を中心にエンジニアリング事業とも連携したサービス体制を充実し、環境に優しい商品力強化を進めています。

耐火物等

中国を中心としたアジアでの急激な経済成長とグローバル化が進む中、当社は「アジアは内需」との方針のもと鑄造市場で「アジアNo. 1」の地位を築くべく海外市場への進出を積極的に進めてまいります。そのキーワードは「地球環境に配慮した製品開発」であり、現有製品の新たな用途開発も積極的に進めながら展開してまいります。

ルツボを中心とした定形耐火物はフェニックスルツボの性能向上活動を継続推進するとともに、新市場向けとして原子力発電所向け高性能ルツボ(キャニスタ)、特殊合金溶解用ルツボ(ホワイトフェニックス)の拡販も順調に推移しております。また省エネルギー性能を付加し開発した黒鉛ルツボ(ゼブラックス)も特許を取得し拡販活動も進めております。

不定形耐火物は、鉄鋼市場の好況を受け高炉用耐火材を中心に生産量が回復基調にあり、顧客操業に対する品質改善、改良を続けシェアを良好に維持し、国内の新たな顧客への拡販活動を積極的に展開しております。鑄造市場向けでは、着実に取鍋等の補修材(ラクコート)新製品の顧客定着化が進行するとともに、鑄造業界のキュボラから電気炉への操業変化に対しCO₂削減、亜鉛鋼板溶解に対応できる誘導炉材の開発および中国市場への技術供与、拡販を展開しております。

エンジニアリング

エンジニアリング部門の売上高は、自動車関連をはじめとする鑄造業界の緩やかな回復基調とともに底を打った感がありました。しかしながら、先行き不透明感から設備投資、設備更新等は、依然として控えられる状況が続いております。

今後は、鑄鉄市場を主要顧客とするエンジニアリング部は、顧客ニーズに沿った環境をテーマとした「省エネ、CO₂削減、廃棄物の削減、生産性向上」に寄与すべく、設計、施工、耐火物全ての面で提案していきます。とりわけ客先の期待度が高い誘導炉について注力いたします。

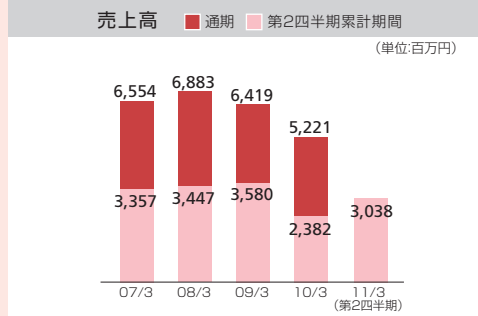
主にアルミニウム鑄造市場向け部門の築炉事業部は、時代の要請に沿ったCO₂削減、省エネ設備開発を鋭意継続するとともに、海外生産拠点を活用しコスト低減にも注力していきます。連続溶解保持炉メルキーパーは、おかげさまで国内外で販売続伸中です。

国内焼却炉、溶解炉、各種処理炉の耐火物メンテナンスを担当する環境事業部は、民間炉で実績を積み重ねつつ、自治体炉にも拡販を展開中であります。また主力製品の特殊補修材クイックセッターは、年々シェアを伸ばしております。



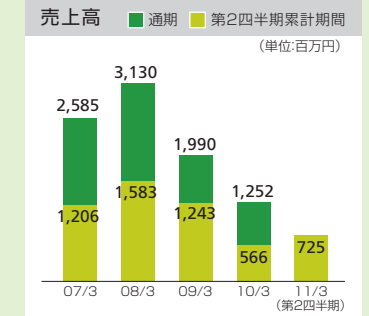
Heart & Spirit 耐火物等

耐火物事業については、鑄造業界向けにおいて自動車をはじめとする当社の主な需要先である輸送機械関連産業がエコカー補助金等の経済対策により業績が回復したこと、また鉄鋼業界向けにおいて鉄鋼生産が伸び国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したこと、さらに海外向けにおいて中国・東南アジア向け需要が拡大したことにより、売上高は増加しました。



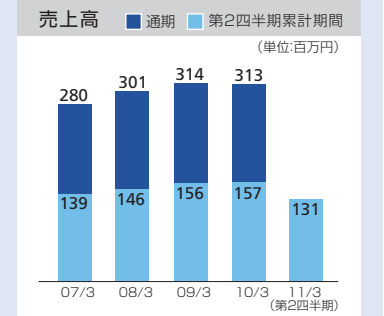
Ecology エンジニアリング

溶解炉・環境関連市場向け製品中心のエンジニアリング事業については、素形材関連産業の設備投資が徐々に回復しつつあり、また自動車メーカー向けアルミ熱処理炉のような大型工業炉や、焼却炉工事などの受注案件も獲得した結果、売上高は増加しました。



Challenge 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業については、テナント退出の影響により、売上高は減少しました。今後、さらにテナントに対して、立地条件の良さ等長所を十分にアピールし、当社の安定的な収入源とすべく、資産の有効活用を図ってまいります。



注目 TOPIC! 地球環境に優しいCO₂削減製品を市場に投入しています。



金属溶解には大量のエネルギーを必要とし、鑄造業界からのCO₂発生量は特に大きく、省エネ化が重要な課題であります。当社は「環境・エネルギー・リサイクル」をキーワードに溶解炉や熱回収方法、耐火物・断熱構成、構造・形状面から製品開発・改良を進め、市場に新製品を積極的に投入しています。当社の主力製品であるフェニックスルツボは当社創業来125年で製法・材質は目覚ましい進化を遂げてきましたがその外観形状は創業当時の形状が基本でした。今回ルツボ外面に凹凸状の縦溝を付け、ルツボ

表面積を約30%増加し受熱効率を向上したルツボ「ゼブラックス」を市場に発表し販売を開始しました。この新形状ルツボはアルミニウム合金溶解用ガス吹き炉での実績ではCO₂削減量は従来形状対比10.3%低減できました。またルツボ底部の台「坩台」にもルツボ底部を加熱できる溝を付け省エネ化を図った「エコ坩台」も販売開始し、鑄造業界のCO₂削減に貢献しています。「ゼブラックス」「エコ坩台」は何れも国内および海外で特許および意匠登録出願中であります。

四半期連結貸借対照表

科目	当第2四半期 連結会計期間末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
資産の部		
流動資産	5,902,218	5,872,929
現金及び預金	1,597,948	1,695,830
受取手形及び売掛金	2,704,197	2,550,271
たな卸資産	1,354,941	1,364,792
その他	246,032	262,636
貸倒引当金	△900	△600
固定資産	3,044,494	3,256,937
(有形固定資産)	(1,909,407)	(2,013,243)
建物及び構築物	1,082,872	1,112,730
機械装置及び運搬具	367,133	412,755
土地	200,056	200,056
その他	259,346	287,702
(無形固定資産)	(21,695)	(24,050)
(投資その他の資産)	(1,113,392)	(1,219,644)
投資有価証券	502,416	539,194
繰延税金資産	311,833	357,907
その他	406,363	431,707
貸倒引当金	△107,220	△109,164
資産合計	8,946,712	9,129,866

(単位:千円、千円未満四捨五入)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
負債の部		
流動負債	4,249,201	4,186,253
支払手形及び買掛金	1,206,785	1,185,911
短期借入金	2,553,970	2,459,969
その他	488,446	540,373
固定負債	2,102,366	2,402,626
長期借入金	1,174,687	1,459,672
退職給付引当金	421,656	416,441
その他	506,023	526,513
負債合計	6,351,567	6,588,879
純資産の部		
株主資本	2,583,381	2,507,206
資本金	704,520	704,520
資本剰余金	56,076	56,076
利益剰余金	1,891,674	1,815,380
自己株式	△68,889	△68,770
評価・換算差額等	62	24,393
少数株主持分	11,702	9,388
純資産合計	2,595,145	2,540,987
負債・純資産合計	8,946,712	9,129,866

POINT

- ①現金及び預金は借入金返済により減少(0.9億円)しております。
- ②受取手形及び売掛金は売上が増えたため増加(1.5億円)しております。
- ③有形固定資産は主に減価償却により減少(1億円)しております。
- ④長期借入金は返済により減少(2.8億円)しております。
- ⑤利益剰余金は増加(0.8億円)しております。

POINT

- ①売上は前年同期比7.8億円(25.4%)増加いたしました。
- ②営業利益は196百万円(前年同期は180百万円の赤字)、経常利益は179百万円(前年同期は188百万円の赤字)となりました。
- ③四半期純利益は90百万円(前年同期は68百万円の赤字)となりました。

株式の状況

株式の状況 (2010年9月30日現在)

発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	14,090,400株(自己株式569,459株を含む。)
株主数	1,595名

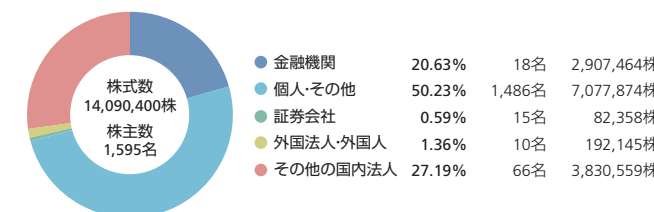
大株主の状況 (2010年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社みずほ銀行	650,000	4.80
プリヴェ企業再生グループ株式会社	633,000	4.68
柏屋商事株式会社	550,000	4.06
株式会社みずほコーポレート銀行	438,000	3.23
野村信託銀行株式会社(信託口)	432,464	3.19
岡田民雄	417,000	3.08
日本坩堝従業員持株会	362,000	2.67
東京海上日動火災保険株式会社	280,000	2.07
日本精鉱株式会社	254,000	1.87
三井住友海上火災保険株式会社	238,000	1.76

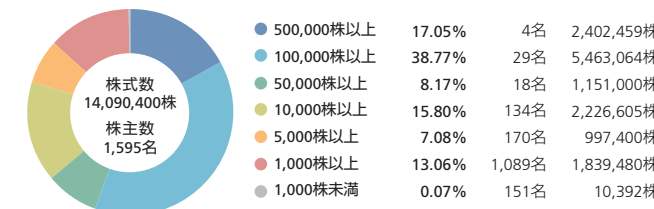
(注)1.当社は自己株式569,459株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2.持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
3.持株比率は、自己株式569,459株を控除して計算しております。

株式の分布 (2010年9月30日現在)

所有者別分布



所有株数別分布



四半期連結損益計算書

(単位:千円、千円未満四捨五入)

科目	当第2四半期 連結累計期間 自2010年4月1日 至2010年9月30日	前第2四半期 連結累計期間 自2009年4月1日 至2009年9月30日
売上高	3,886,768	3,103,373
売上原価	2,792,250	2,421,330
売上総利益	1,094,518	682,043
販売費及び一般管理費	898,333	862,436
営業利益又は営業損失(△)	196,185	△180,393
営業外収益	26,808	43,712
営業外費用	43,504	51,758
経常利益又は経常損失(△)	179,489	△188,439
特別利益	—	149,225
特別損失	19,060	18,394
税金等調整前四半期純利益又は四半期純損失(△)	160,429	△57,608
法人税、住民税及び事業税	15,805	2,045
法人税等調整額	52,494	10,277
少数株主利益又は少数株主損失(△)	2,314	△2,181
四半期純利益又は四半期純損失(△)	89,816	△67,749

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円、千円未満四捨五入)

科目	当第2四半期 連結累計期間 自2010年4月1日 至2010年9月30日	前第2四半期 連結累計期間 自2009年4月1日 至2009年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	137,812	△48,117
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,677	133,594
財務活動によるキャッシュ・フロー	△219,986	△224,011
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,031	△1,806
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△99,882	△140,340
現金及び現金同等物の期首残高	1,559,230	1,406,766
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,459,348	1,266,426